

初心者でも簡単! プランターでも育てやすい野菜 ～キュウリ編～

主な品種



白イボ系 「北 進」

早生で豊産の夏秋どり白イボ品種です。果色は濃緑でツヤが良く、肉質は歯切れが良くて良質のキュウリです。



地這い品種 「地 這」

暑さや病気に強く、果実は濃緑の短形白イボ。肉質が特によい種類です。草勢が強く、耐暑性も抜群です。



すうよう 四葉系 「シャキット」

四葉系キュウリの歯切れのよさに、みずみずしさを加えた味わい深い食味をもちます。果実の長さは21～22cmと短かめです。

用意するもの

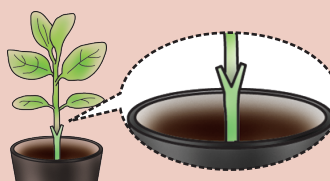
- 幅のあるプランター
「ベジプランター700型」など
- 市販の培養土
「おいしい野菜の土」など
- 市販の肥料
「マイガーデンベジフル」など
- 鉢底石 ●園芸用支柱 ●移植ゴテ
- ハサミ ●誘引用のひも(ビニタイ) など

鉢底石はネットに入れて



鉢底石は図のように台所用水切りネットに入れて輪ゴムでしばっておけば、土を再利用するときに、培養土と分けやすいので便利です。ネット入りの鉢底の石もごさいます。

●接木苗について



接木苗とは、根が強く病気に強い植物と、おいしい実がたくさんなる植物とをつな合わせた苗です。接木苗は高価ですが、病害・連作障害などに強く育てやすいのでおすすめです。また収穫期間が長く、たくさん実を取ることができます。

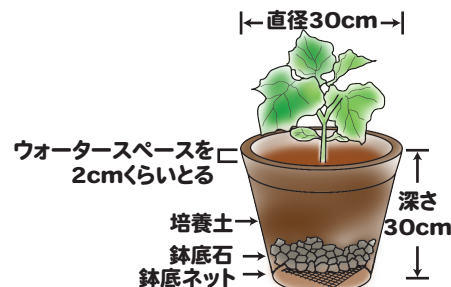
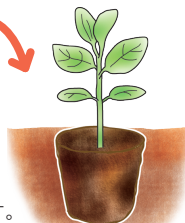
※台木から葉が茂ってくる場合がありますので、こまめに摘みとるようにしてください。

植え付け



根を崩さず、傷めないように優しくポットから取り出します。

浅めに植えます。

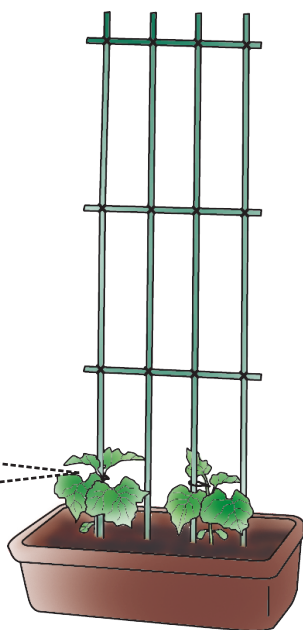
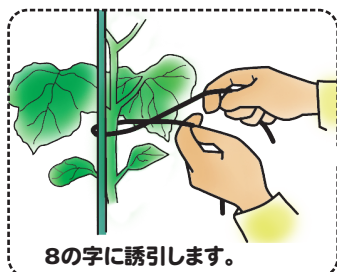


直径30cm、深さ30cmのコンテナの底に鉢底ネットを敷き、底が見えなくなるくらいの軽石を入れます。次いで培養土をコンテナに入れますが、この時ウォータースペースを2cmくらいとるようにします。コンテナの中央に植え穴を掘り、苗をポットから取り出して植え付けます。植付け後はたっぷりと水やりしておきます。

栽培から収穫まで

●支柱立て・誘引

植え付け後、支柱を立てて苗を誘引します。支柱を立てたら、植え付けた苗を誘引します。細長いプランターに2株を植え付ける場合は、苗の後方へ格子状に支柱を立て、つるを誘引します。この後は週1回を目安に、つるを支柱へ定期的に誘引します。



おすすめ!マルチング



土の表面をカバーすることを『マルチング』といいます。マルチングは冬は植物を寒さから守り、夏は土の湿度を保ってくれるので、野菜の栽培に欠かせないプロセス。雑草や害虫を防ぐ効果もあります。畑ではポリエチレンフィルム「**菜園マルチ**」などを使いますが、プランター菜園では使いやすいココヤシファイバーやワラなど自然素材のものが見た目もかわいくおすすめです。

●水やり・追肥

肥切れしないように、月1回、1株当たり1にぎり(約30g)を用土の表面に追肥します。乾燥が続く高温期は、朝夕方に十分水やりを行います。

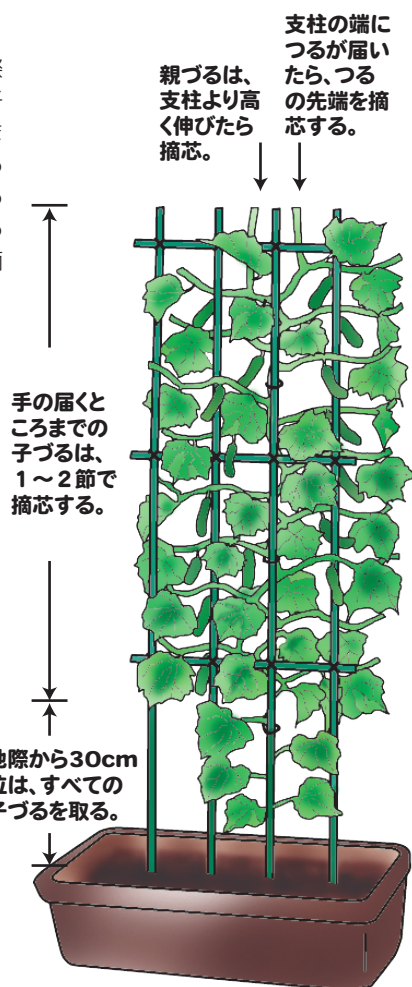
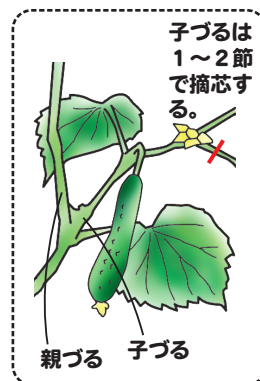
●病害虫

うどんこ病、アブラムシには「**やさお酢**」を散布します。べと病にはワイドヒットー顆粒水和剤、ウリハムシにはベニカXネクストスプレー等を散布します。

※農業の使用にあたっては各商品の使用上の注意をよく確認し、使用してください。

●整枝

親づるの5〜6節まで(地際から30cmくらいまで)の子づるは、すべて摘みとります。その上から出る子づるは1〜2節で摘芯し、親づる1本仕立てとします。親づるが支柱の高さに達したら摘芯します。



●収穫

最初の2〜3果は、株を疲れさせないため若どりします。それ以降は、18〜20cmくらいになったらどんどん収穫しましょう。うっかり見逃すとヘチマみたいに大きくなってしまい、味が落ちてしまいますので注意が必要です。1株につき15〜20本くらいの収穫を目標にしましょう。



※緑の文字は、アヤハディオで取り扱っている商品です。

※掲載商品は予告なく変更する場合がございます。 [禁複製]



アヤハディオアプリ 会員募集中!

ダウンロード
無料

アヤハディオでのお買物を
お得に、便利に。

- ☒ お買得情報・クーポンが定期的に届く!
- ☒ カードを持ち歩かずアヤカポイントを貯めてつかえる!
- ☒ イベント情報やお買物メモ機能など便利で楽しさいっぱい!



ダウンロードは
コチラから

